

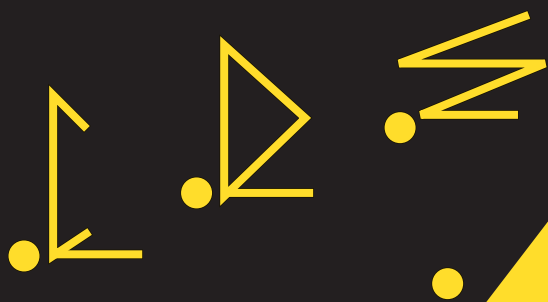
the17th.

# Hokkaido Student's Design Competition

一般社団法人 サッポログラフィックス杯

第17回 北海道学生デザインコンクール

作品集



# 最優秀賞

北海道立札幌高等技術専門学院

京谷奈央さん

## ●制作趣意

コンセプトは「旅への道のり」です。人物はアナログ、奥の空間はデジタルで描く事によって日常と旅する世界の区別を付け、遠近感を出し日常から解放されて目的へ向かって歩いている様子を描きました。自由そうに見えて制限ばかりの日常をあえて白い空間で表現し、空間の破けてる更に奥を自由を求める旅ができる場所として色を付けて表しました。

キャッチコピーは不自由・制限ばかりのいつも通りの生活から新たな出会いやその土地特有の空気や価値観に触れる事で自分自身を彩るという意味で空白・彩という二つの言葉を使いました。

## ●総評

不自由のある現在から開放されたい。そんな気持ちをもっともストレートに伝わってくる作品でした。今まで日常だと思っていたことが遠くに感じられながらも、ちょっと先に見えている。そんな希望を感じることができました。外からの光を感じさせるライティング表現も効いています。



行き先

# 優秀賞

北海道芸術デザイン専門学校

石黒美和さん

## ●制作趣意

当日はもちろん楽しいですが旅行に行く準備も楽しいと思い、そのわくわくを伝えられるようなイラストを描きました。

## ●総評

「帰宅するまでが遠足です。」などと言われたことがあります。が、「旅」を「準備」の段階からとらえ、「わくわく」とした気持ちを表現するというコンセプトが面白いと感じました。中央の枠線の扱いや、画面の4隅の扱いにもうひとつ工夫があるとよりよい作品になったでしょう。



わくわく

# 入賞



北海道芸術デザイン専門学校  
佐藤玲菜さん



北海道芸術デザイン専門学校  
山崎春翔さん

## ●佐藤玲菜さん

この課題を出したあとのことになりますが、民間のロケットが観光として宇宙に行くことに成功しましたね。楽しさ。という意味では賑やかしくてよいのですが、輪郭線のせいでコピーが読みにくく感じられたのが惜しいです。

## ●山崎春翔さん

鮮やかな画面が印象的な作品です。外出自粛が求められる中、そんな日常から開放されたいという気持ちが伝わりましたが、見る人によってはモニター越しに自由な世界が広がっていると捉えられる可能性も否定できません。そういった意味でもコピーがあった方がよいのではないかと思います。

# 佳作



北海道芸術デザイン専門学校  
真鍋春樹さん



北海道芸術デザイン専門学校  
丸井美岬さん

## ●真鍋春樹さん

現在インバウンド需要が減っている状況ですが、今後復活するであろう外国人観光客へのアプローチとして魅力的なビジュアルだと思いました。ポスターサイズの関係もありますが、もっとたくさん魅力的な観光地や物産が入ってくるとより魅力的な仕上がりになると思いました。

## ●丸井美岬さん

どんなどころにも行ける。という意味でオフロードバイクをモチーフにするという視点が他の出品作品にはなく、目をひきました。画面的にはまとまっているのですが、ブルー系のみで構成されているため、色使いに物足りなさを感じました。補色の関係を使うなど検討してみるとぐっと華やかな画面に仕上がるとと思いますよ。

# 応募作品



北海道芸術デザイン専門学校

秋庭帆那さん

だいたんな構図が目をついたのですが、「旅」というより「思い出」の方が強く感じられたところが惜しいと思いました。



北海道芸術デザイン専門学校

久保明璃さん

ヴィジュアルの完成度は非常に高かったのですが、「旅」が伝わるコピーが欲しかったです。



北海道芸術デザイン専門学校

塩越あきみさん

北海道の食材が魅力的ですね。伝えたいコピーが読みにくい点もつたいないです。



北海道芸術デザイン専門学校

長島洸太さん

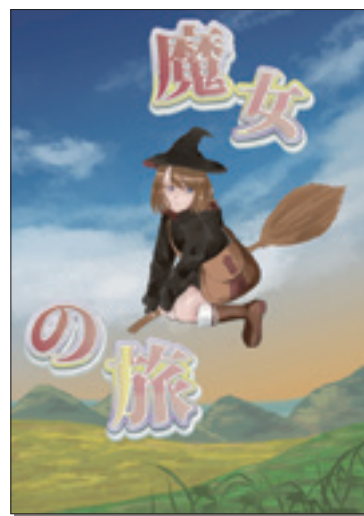
新しい発見の要素を強く感じられるようなビジュアルになると、意図がより伝わったと思います。



北海道芸術デザイン専門学校

野村玲亜さん

爽やかな一直線の道、風景が印象的です。雲の位置などを調整してコピーが読みやすくなると全く別の見え方になったでしょう。



北海道芸術デザイン専門学校

橋爪愛花さん

ライトノベル風の画面が印象的です。キャラクターの表情がもっと楽しそうでもよかったかもしれません。

## 総評

当たり前と思っていたことが制限されるこのご時世、みなさんがどのような「旅」を表現するのか楽しみにしていました。このようなポスターをはじめ、世の中で流行する物語や音楽は、世の中を反映するモチーフが表現され、今回もCOVID-19の影響を受けた作品が多くありました。

今までの当たり前があつという間に変貌するこの時代に、次の世界を描き、作っていくのは若いみなさんの力がなければ成り立ちません。当たり前と思っていたことにこそ、ヒントが眠っていることが多くあります。鋭い今を見る視点を大切に、ものづくりに接して欲しいと思います。